

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

登坂正子氏 徳山医師会 2月4日 享年 76

編集後記

3月8日は国際女性デーでした。

近年、日本でもミモザの花を象徴とした黄色い装飾やイベントが見られるようになりましたが、この記念日の背景には、世界中の女性たちが自由と平等を求めて闘ってきた長い歴史があります。1904年、ニューヨークで女性労働者たちが参政権を求めて運動を起こしました。その背景には、1857年のニューヨークの被服工場火災で100人以上の若い女性が犠牲となった産業災害があります。当時、無断休憩を防ぐために出入り口が施錠されていたため、多くの女性が逃げ場を失い、命を落としました。この悲劇をきっかけに、女性たちは労働条件の改善と参政権を強く訴えるようになり、1908年3月8日には「パンとバラ」を掲げてデモを行いました。「パン」は賃金や労働条件の向上、「バラ」は尊厳と人権の象徴です。1910年、コペンハーゲンで開催された国際社会主義者会議では国際女性デーの制定が提唱され、翌年にはヨーロッパ各地で初の記念行事が開催されました。100万人を超える人々が集会に参加し、女性の権利拡大を訴えましたが、当時は年によってこの記念日の日付が変わっていました。

では、なぜ3月8日が国際女性デーとなったのでしょうか。その決定的なきっかけは、1917年のロシアでの事件です。第一次世界大戦下、食糧不足に苦しむ女性たちが3月8日（ロシア暦では2月）、首都ペトログラードで「パンと平和」を求めてストライキを決行し、それが大規模なデモに発展。4日後にはロシア皇帝が退位し、臨時政府の下で女性の選挙権が認められました。この出来事が2月革命の口火となり、国際女性デーが3月8日に定まる決定的な要因となったのです。

女性参政権獲得のための闘いは、国や時代を超えて連鎖していきます。イギリスでは「サフラジェット」と呼ばれる女性たちが過激な抗議活動を展開し、投獄された女性たちがハンガーストライキを始めると、政府は強制給餌を行いました。また、1913年の競馬レース中に活動家エミリー・デイヴィソンが国王の馬の前に立ちはだかり命を落とした事件は、女性参政権運動の象徴として世界に衝撃を与えました。私もNHKの『映像の世紀』で見たこのシーンは忘れられません。こうした歴史を経て、1975年には国連が3月8日を「国際女性の日」として公式に記念するようになり、世界各国で女性の権利やジェンダー平等に関する啓発活動が広がっています。

これらは、わずか100年余り前の出来事です。女性参政権運動をするとお上につかまり鉄の猿ぐつわをはめられ、強制的に食道に食事を流し込まれるのですよ。フォアグラだって動物虐待だと非難されている昨今です。私には想像ができない世界に100年前の女性たちは生きていたのでしょうか。しかし、今の私たちがいる世界は、そうした過去とどこかで繋がっています。もしかしたら、現代の私たちの行動が100年後の女性たちの世界に細い糸で繋がっていくのかもしれない。そして何より現代でも、少女の教育を受ける権利が奪われ児童婚が行われている世界があることを忘れずにいたいと思います。

(常任理事 長谷川奈津江)